

平成29年度滋賀県原子力防災実動訓練の結果について

原子力災害が発生した場合に、住民の皆さんが災害時に行う屋内退避や避難など、具体的な行動を確認するため実動訓練を実施しました。

1 目的

- 屋内退避・一時移転、スクリーニングおよび緊急被ばく医療に係る手順の確認と検証
- 県、関係市および関係防災機関の職員の原子力防災対策に係る能力の向上
- 地域住民の原子力防災対策に係る意識・理解の向上

2 実施日時

平成29年11月19日（日） 午前7時00分から正午まで

3 主催

滋賀県および長浜市

4 参加人数および参加・協力機関

(1) 参加人数 住民269人 防災業務従事者206人 合計475人

(2) 参加・協力機関（18機関）

内閣府、陸上自衛隊第3戦車大隊、航空自衛隊第12高射隊、自衛隊滋賀地方協力本部、大津市、滋賀県警察本部、長浜警察署、木之本警察署、湖北地域消防本部、長浜市消防団、原子力災害拠点病院（長浜赤十字病院、大津赤十字病院、滋賀医科大学医学部附属病院）、原子力災害医療協力機関（市立長浜病院、長浜市立湖北病院、（公社）滋賀県放射線技師会）、関西電力（株）、（一社）滋賀県バス協会

5 外部評価者

内閣府1名

6 訓練内容

(1) 訓練想定

- 関西電力（株）美浜発電所3号機において事故が発生。施設敷地緊急事態から全面緊急事態に至り、炉心損傷により放射性物質が周辺環境に放出した。

- 長浜市内のUPZ内一部地域において、空間放射線量率の実測値が $20\mu\text{Sv/h}$ （1週間程度内に一時移転）を超過した。

(2) 訓練項目

ア 住民屋内退避

- ① 防災行政無線、広報車等による住民への屋内退避指示

イ 住民避難

- ① 防災行政無線、広報車等による住民への避難（一時移転）指示

- ② 避難用バスの手配、避難経路の設定

- ③ 一時集合場所の設置・運営

- ・ 一時集合場所開設
- ・ 被災住民登録
- ・ 安定ヨウ素剤配布・服用の説明

- ④ バスによる住民避難

- ・ 集会所での屋内退避
- ・ 安定ヨウ素剤配布・服用の説明
- ・ 住民避難

- ⑤ バスによる住民避難

- ・ 陸上自衛隊、航空自衛隊および原子力事業者（関西電力(株)）による車両支援
- ・ 警察職員による輸送車両の先導

- ⑥ 避難中継所（スクリーニング会場：湖北体育館）の設置・運営

- ・ 《今回が初めて》湖北体育館をスクリーニング会場として使用
- ・ 避難中継所運営本部設置・運営
- ・ 《本県として初めて》ゲートモニタを活用して人のスクリーニングを実施し、汚染の可能性のある住民については、更にGMサーベイメータを活用したスクリーニングを実施
- ・ 《本県として初めて》ゲートモニタを活用して車両のスクリーニングを実施し、汚染の可能性のある車両については、更にGMサーベイメータを活用したスクリーニングを実施

- ⑦ 消防救急車両による傷病者の医療機関（市立長浜病院）への搬送

- ⑧ 原子力災害医療協力機関（市立長浜病院）における被ばく医療の実施



写真 1 : 警察による地元警ら活動
(永原小学校区)



写真 2 : 一時集合場所へ集まる住民
(西浅井運動広場体育館)



写真 3 : 一時集合場所での住民受付
(西浅井運動広場体育館)



写真 4 : 安定ヨウ素剤配布・服用について説明
(西浅井運動広場体育館)



写真 5 : 避難中継所運営本部の運営
(湖北体育館)



写真 6 : 住民の避難車両が避難中継所に到着
(湖北体育館)



写真 7 : ゲートモニタによるスクリーニング
(湖北体育館)



写真 8 : GMサーベイメータによるスクリーニング
(ゲートモニタで汚染の反応のあった人)
(湖北体育館)



写真 9 : 車両スクリーニング①
(湖北体育館正面駐車場)



写真 10 : 車両スクリーニング②
(湖北体育館正面駐車場)



写真 11 : 知事講評
(湖北文化ホール)



写真 12 : 原子力防災講習会 (リスクコミュニケーション)
(湖北文化ホール)

7 主な成果等

(1) 主な成果

- ① 湖北体育館（一時集合場所から避難所までの経路上に立地）のスクリーニング会場としての機能性および利便性を確認することができた。
- ② ゲートモニタ（3台）を活用した人および車両スクリーニングを初めて実施し、GMサーベイメータでスクリーニングを行うよりも大幅に時間を短縮することができた。

（結果詳細）

人のスクリーニング（ゲートモニタ2台）

第1グループ 121人 ⇒ 約20分

第2グループ 148人 ⇒ 約30分

防災関係機関職員 60人 ⇒ 約10分

合計329人 所要時間 約60分

（参考：人のスクリーニング所要時間の比較）

ゲートモニタ使用：約20秒/人、GMサーベイメータ使用：約3分/人

車両スクリーニング（ゲートモニタ1台）

特別養護老人ホーム「奥びわこ」10人乗りワゴン車1台 ⇒ 約6分

長浜市消防団 5人乗りポンプ車両2台 ⇒ 約12分

長浜市広報車両 4人乗り乗用車2台 ⇒ 約10分

合計 5台 所要時間 約28分

（参考：車両のスクリーニング所要時間の比較）

ゲートモニタ使用：約6分/台、GMサーベイメータ使用：約15分/台

- ③ 訓練終了後に、住民を対象に訓練を振り返りながらの講習会を実施したことで、原子力災害時の適切な行動についてリスクコミュニケーションを進めることができた。

(2) 今後の課題

- ① ゲートモニタでのスクリーニングに関し、検査を待つ住民の待機位置などスクリーニング会場レイアウトについて検討する必要がある。
- ② 避難を支援する消防団員に対しても、より安全で円滑な避難支援を実施していただけるよう、リスクコミュニケーションを進める必要がある。
- ③ 原子力災害時に、住民の皆さんが冷静に適切な行動を取れるよう、リスクコミュニケーションを進めていく必要がある。
- ④ 災害の影響の範囲によっては、複数の避難中継所の設置が必要となる場合がある。住民避難が完了するまで複数の避難中継所の運営を継続できるように、交替要員を含むスクリーニング人員など、必要な人員を確保する体制を構築する必要がある。